

第1節

まちづくりの主役である

「ひとづくり」

子育て

教育

スポーツ・文化

男女共同参画・平和・人権

(1) 子育て ～子どもの成長を育むまち～

ア 一人ひとりの育ちを大切に環境づくり

施策の概要

子どもたちの健やかな成長や発達を支援する環境づくり、放課後の子どもの居場所づくりに取り組みました。

施策の成果

こども発達支援センターは、引き続き保育所・保護者・保健師などとの連携に努め、発達に課題のある子どもたちの早期支援体制の充実を図りました。

また、放課後の居場所づくりを通じて、子どもたちの安全・安心が確保され、地域住民との交流も図られました。

事務事業の実施状況

■ こども発達支援センター運営事業（子育て支援部）

発達面に心配のある乳幼児を健診などで早期に発見し、発達に関する相談（運動・言語・心理など）や親子通所教室での支援が受けられる施設として、こども発達支援センター「すまいる」を開設しています。親子通所教室では、小集団での楽しい遊びを取り入れ、心身の発達を促すとともに、保護者が子どもへの理解と認識を深め、子育ての不安を軽減できるように支援を行いました。令和3年10月に開設した併設の地域子育て支援センター「すまいる」では、「あそびの場の提供」「子育て相談」「子育て講座」などを行い、「ネウボラみよし」のサテライトを定期的実施し、保育士、保健師による専門的な相談や支援の充実を図りました。

また、保育の中での発達支援の充実をめざし、専門講師による保育所などでの巡回相談や保育所と協働し一体的支援体制を構築する取組として「発達支援モデル保育所推進事業」を行っています。さらに、保育士・保健師などの専門職を対象にした研修会を開催し、児童や保護者への適切な対応などについて理解を深めスキルアップを図りました。

■ 放課後子ども教室事業（教育委員会）

小学校1年生から6年生までの児童を対象として、放課後や春、夏、冬休みなどの学校休業日に、勉強やスポーツ・地域住民との交流活動などを行い、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる場として、放課後子ども教室を開設しています。

市内10ヶ所（河内・栗屋・布野・作木・川地・青河・田幸・川西・君田・小童）で、住民自治組織などへ運営を委託し、地域住民が直接子どもたちに関わることで地元で根付いた活動となりました。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、各教室で工夫し、学習指導をはじめ、工作教室、調理教室、スポーツ活動、落語教室、農業体験などの幅広いプログラムを企画し、子どもたちの可能性が広がる取組が行われています。

■ 放課後児童健全育成事業（教育委員会）

保護者が就労などにより、昼間留守にする家庭の小学校1年生から6年生までの児童を対象として、放課後や土曜日、春、夏、冬休みなどの学校休業日に、家庭に代わる生活の場として、遊びを中心とした活動を行う放課後児童クラブの運営を行いました。運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、子どもたちの安全・安心を確保しながら、子どもたちの健全な育成を図りました。

三良坂放課後児童クラブを、令和4年12月に三良坂支所内へ移設しました。また、八次小学校校区については、八次こども集会所を整備し、令和5年3月に移設しました。

<放課後児童クラブの年間平均利用児童数>

(単位：人)

放課後児童クラブ名	定員	児童数
三次小学校第1放課後児童クラブ	45	45
三次小学校第2放課後児童クラブ	45	45
十日市第1放課後児童クラブ	80	65
十日市第2放課後児童クラブ	40	35
十日市第3放課後児童クラブ	40	36
十日市第4放課後児童クラブ	40	34
神杉放課後児童クラブ	35	21
酒河第1放課後児童クラブ	40	33
酒河第2放課後児童クラブ	40	30
八次第1放課後児童クラブ	45	30
八次第2放課後児童クラブ	40	28
八次第3放課後児童クラブ	30	27
八次第4放課後児童クラブ	45	35
八次第5放課後児童クラブ	30	24
八次ふれあい放課後児童クラブ	40	24
和田放課後児童クラブ	35	19
吉舎放課後児童クラブ	40	28
三良坂放課後児童クラブ	40	32
三和小学校放課後児童クラブ	35	29
甲奴放課後児童クラブ	40	34
ちゅうおう放課後児童クラブ	55	53
計	880	707

<小規模型放課後児童クラブ事業補助金交付対象クラブ>

1ヶ所（八幡）

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

■ 障害児等保育事業補助金（子育て支援部）

発達支援の必要な児童一人ひとりに対応した保育を行うため、民間委託保育所・認定こども園に対して、支援保育士の人件費を助成し、職員体制整備の支援を行いました。

(単位：千円)

区 分		事業費	財 源 内 訳		成果指標など
			特 定 財 源	一般財源	
営 事 業	こども発達支援センター「すまいる」	15,152	国県支出金 328	14,824	延利用者数 1,215 人
	地域子育て支援センター「すまいる」	6,026	国県支出金 4,018	2,008	あそびの広場延利用者数 968 人 初期通所教室延利用者数 308 人
放課後子ども教室事業		22,179	国県支出金 8,174	14,005	10ヶ所 加入者 186 人
放課後児童健全育成事業		161,854	国県支出金 67,484 その他 28,078	66,292	放課後児童クラブ (公営20ヶ所, 委託1ヶ所) 利用者数 707 人 小規模型放課後児童クラブ 事業補助金交付(1ヶ所) 利用者数 10 人
放課後児童施設整備事業		24,543	国県支出金 11,250 起債 12,200	1,093	八次こども集会所整備 (八次第1・2・3・4・5 放課後児童クラブの集約)
障害児等保育事業補助金		20,751		20,751	保育所 3 所 認定こども園 1 園
計		250,505	131,532	118,973	

イ 子育てしやすい家庭環境づくり

施策の概要

ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て相談支援センター）を中心に、妊娠前から妊娠・出産・子育て期まで切れ目のない支援に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症に対応したデジタルツールを活用し、妊産婦や子育て支援に取り組みました。また、ネウボラ DX 事業によるネウボラカルテ（電子カルテ）の運用を開始し、関係課と連携して予防的な支援体制に向けた協議を進めました。

誰もが安心して産み育てることのできる総合的な子育て支援として、妊娠から出産、子育てにかかる費用を助成することで、経済的負担や子育てに対する不安感の軽減につながりました。また、多様な子育て・保育ニーズに対応したサービスの充実を図り、子育てと仕事の両立をめざして、総合的な子育て支援体制の整備に取り組みました。

施策の成果

医療費助成のほか保育利用料などの負担軽減制度や、子どもの年齢に応じた様々な子育て支援策の実施など、子どもを安心して産み育てることのできる環境づくりを進めました。

子育てと仕事の両立を支援するために、延長保育や病児・病後児保育、土曜日午後保育を拡充するなど、様々な保育サービスを提供するとともに、保育所の施設改修などを行い、保育環境の充実を図りました。

特定不妊治療・不妊検査・一般不妊治療・不育治療費助成事業を行い、不妊治療と不育治療の負担軽減につなげました。

妊娠期から子育て期を通して安定した養育支援環境を確保するため、「ネウボラみよし」をはじめとした様々な機会を通じて、妊娠・出産・子育てに関する多数の相談支援を行いました。また、産前・産後ヘルパー派遣事業及び産後ケア事業を継続実施し、コロナ禍における妊産婦の不安や負担の軽減につなげました。

事務事業の実施状況

■ こども医療費助成事業（子育て支援部）

18歳までの子どもに対して、一部負担金を1医療機関につき通院500円（月4日まで）、入院500円（月14日まで）とし、補装具、院外処方薬剤は無料とする医療費助成を行いました。子どもの疾病の早期発見及び治療を促し、子どもの健やかな成長と、子育てにかかる経済的な負担の軽減につなげました。

■ 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金（子育て支援部）

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、食費などの物価高騰の影響に直面している子育て世帯の生活支援を行うため、ひとり親世帯及びひとり親世帯以外の低所得の子育て世帯に対し、子ども（高校生等以下）一人当たり5万円の特別給付金を支給しました。

■ （新）低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金（大学生等世帯分）（子育て支援部）

市独自事業として、国事業の低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の対象者を大学生（専門学校を含む。）を扶養する世帯に拡大し、学生一人当たり5万円の特別給付金を支給しました。

■ 妊産婦健康診査助成事業（福祉保健部）

妊産婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図るため、妊婦一般健康診査検査券（1回）、妊婦一般健康診査（14回）、子宮頸がん検診（1回）、クラミジア検査（1回）、妊婦歯科健診（1回）、産婦健康診査（2回）の費用を助成しました。

産前から産後までのほぼ全ての定期健康診査の助成を行い、妊娠や出産にかかる経済的負担を軽減し、妊産婦の健康管理の充実を図ることにより、妊娠届の早期提出や産後うつ予防のための早期支援につながりました。

■ ネウボラみよし事業（妊娠・出産・子育て相談支援センター）（福祉保健部，子育て支援部）

ネウボラみよしの拠点を市役所東館2階とし、サテライト3ヶ所（地域子育て支援センター）では保育士や保健師、助産師、管理栄養士など専門職による相談・支援体制の充実を図りました。妊婦全戸訪問や産後ケア事業、産前・産後サポート事業、産前・産後ヘルパー派遣事業、パパママ教室などを行い、妊娠期から子育て期を通して安定した養育支援環境の確保に努めました。地域では、母子保健推進員をはじめ関係機関との協力・連携により、地域で子育て家庭を見守る環境づくりに取り組みました。

また、令和4年度も産前・産後ヘルパー派遣事業及び産後ケア事業の利用料無償化を継続しました。産前・産後ヘルパー派遣事業では414件の利用、また産後ケア事業アウトリーチ（訪問）型では115件の利用があり、周囲からの支援が少ない妊産婦や育児不安がある妊産婦への支援を行いました。

医療機関とも定期的な連絡会議を行い、関係機関との情報共有や支援について検討を行いました。



パパママ教室

■ （新）出産・子育て応援給付金事業（福祉保健部）

すべての妊婦・子育て家庭が安心して妊娠・出産・子育てしていただけるように、ネウボラみよしにおいて、身近で切れ目のない「相談支援」を行うとともに、出産・子育てにかかる費用の負担軽減を図るために「経済的支援（給付金）」を行いました。

■ ネウボラDX事業（福祉保健部，子育て支援部，教育委員会）

母子保健データを一元的に管理するネウボラカルテ（電子カルテ）の運用を開始し、切れ目のない支援を行うため、関係課との情報共有に取り組みました。

また、子どもの育ちにつながるリスクを早期に把握し、関係者で情報共有して予防的支援を行うことにより、子どもが心身ともに健やかに育つことを目的とした広島県の「子どもの予防的支援構築事業」にモデル市町として参加し、AIを活用したリスク予測を行うために必要な子どもに関する各種データの連携について関係課で調整を行いました。

■ 不妊治療費・不育治療費助成事業等（福祉保健部）

令和4年4月から不妊治療の保険適用開始により、広島県の特定不妊治療における助成事業は終了しましたが、市では保険給付を除く費用を助成しました。また、不育治療費に要する費用に対し、全額助成を行いました。

不妊検査・一般不妊治療については、広島県助成額を除いた費用の2分の1を助成しました。経済的負担の軽減を図ることにより、安心して治療を受けることができる環境づくりや子どもを産みやすい環境の拡充に努めました。

■ 地域子育て支援センター運営事業（子育て支援部）

令和4年12月に三良坂支所2階へ三良坂地域子育て支援センター「みつばち」を移転し、公営3ヶ所、民営4ヶ所の地域子育て支援センターを拠点として、子育て相談や遊びの場の提供、子育て講座などを行いました。また、北部・南部地域においても交流の場を設け、子育てミニイベントや子育てに関する相談などを行いました。

「ネウボラみよし」のサテライトである、北部あそびの広場、三良坂地域子育て支援センター及び地域子育て支援センター「すまいる」では、保健師や管理栄養士の巡回相談による専門的な相談や支援を行いました。



ネウボラサテライト 巡回相談



三良坂地域子育て支援センター「みつばち」
(三良坂支所内)

■ こどもの「遊び」推進事業（子育て支援部）

季節や天候に左右されず、親子が安心して遊べる場所「こどもの室内遊び場（みよし 森のポケット）」を運営し、親子のふれあいと、木のおもちゃを中心とした木育を推進しました。

また、ワークショップや、1年を通して同じ種目で競い合う「年間チャレンジ！！」「KAPLA®ブロックにチャレンジ！！」などのイベントを開催し、入館者の増加に努めました。



木の玉プール



マルシェエリア



赤ちゃんの部屋

■ 保育の充実（子育て支援部）

保護者の就労や疾病等により保育を必要とする乳幼児など、多様な保育ニーズに対応した保育を行いました。養護と教育が一体となった保育を進め、健康で豊かな人間性を持った子どもの育成に努めました。また、安心して預けられる保育所とするため、東光保育所整備事業に伴う設計業務に着手したほか、施設の衛生面や利便性向上のための環境改善などに取り組みました。

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、こまめな換気や手洗い・消毒など、最大限の感染予防に努めながら、保育を提供しました。

（単位：人）

令和4年度	合計		
	内 公立	内 私立	内 地域型
施設定員	1,922	280	58
月平均児童数	1,375	273	46

■ （新）保育施設等原油価格高騰対策事業（子育て支援部）

幼児教育・保育を継続的・安定的に提供するため、原油価格高騰の影響を受けている市内保育施設などに対して補助金を交付し、負担軽減を図りました。

■ 保育所 ICT 試験導入事業（子育て支援部）

業務負担の軽減と家庭との連絡の円滑化を推進するため、保育業務の ICT 化に取り組みました。神杉保育所、酒屋保育所、吉舎保育所及び三良坂保育所において、ICT 化のための通信環境・設備を整備し、事務負担の軽減・効率化に向けた試験運用を開始しました。保護者からの出欠連絡や保育所からのお知らせをデジタル化したことにより、時間や場所を選ばず、コミュニケーションがとれるようになりました。

■ 多子世帯保育利用料（保育料）軽減制度（子育て支援部）

保育所・幼稚園・認可外保育所に通う第2子目の保育利用料（保育料）を半額、第3子目以降の保育利用料（保育料）を無料にし、多子世帯の保護者の経済的な負担軽減を図りました。

■ 副食費軽減事業（子育て支援部）

保育所・幼稚園などに入園している乳幼児に対する副食費を軽減し、子育てにかかる経済的な負担の軽減を図りました。

■ 病児・病後児保育事業（子育て支援部）

病児・病後児保育室「すくすく」を市立三次中央病院内に、病後児保育室「おひさま」を酒屋保育所内にそれぞれ開設し、病気の回復期に至らない時期からの児童の看護及び保育を行い、保護者の子育てと仕事の両立に向けて支援しました。

なお、近年の利用者の減少や、有資格者の確保などの理由から、令和4年度末で病後児保育室「おひさま」を廃止し、病児・病後児保育室「すくすく」に統合しました。

■ ひとり親家庭等自立応援プロジェクト事業（子育て支援部）

経済的に支援を必要とするひとり親家庭などの学び・仕事・住まい・生活を応援するため、「ひとり親家庭等入学支度金支給事業」【学び】、「ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業」【仕事】を行いました。また、離婚などによりひとり親となった家庭の住居確保を支援するため、住居移転費用と家賃の一部を補助する「ひとり親家庭等住居確保支援事業」【住まい】を実施し、ひとり親家庭などの自立を支援しました。

■ 子育て支援課相談室事業（子育て支援部）

家庭児童相談員，婦人相談員及び母子・父子自立支援員を配置し，DV（ドメスティック・バイオレンス）などの困りごとや子育ての悩み，ひとり親家庭の支援に関する事など，専門の相談員が応じ，庁内及び関係機関と連携を図りながら，問題解決に向けたサポートを行いました。

また，「子ども家庭総合支援拠点」を核として，児童虐待の予防的支援の強化を図りました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども医療費助成事業	135,373	国県支出金 22,146 その他 88,600	24,627	対象者 6,903 人
低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金	51,720	国県支出金 51,719	1	対象者 980 人 給付額 49,000 千円 事務費 2,720 千円
低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金(大学生等世帯分)	1,705	国県支出金 1,000	705	対象者 34 人 給付額 1,700 千円 事務費 5 千円
妊産婦健康診査助成事業	25,032	国県支出金 1,124	23,908	妊婦健診受診人数 288 人 妊婦健診受診延人数 3,964 人 産婦健診受診延人数 446 人
妊婦歯科健康診査事業	488		488	受診人数 132 人
ネウボラみよし事業(妊娠・出産・子育て相談支援センター)	11,137	国県支出金 8,377	2,760	相談等延件数 7,619 件 (主な事業内訳) 妊婦訪問・来所 213 件 乳児訪問 286 件 産後ケア事業(母乳育児相談助成事業)利用人数 52 人 産後ケア事業(宿泊14日,アウトリーチ115件) 産前・産後サポート事業(母子保健推進員乳児訪問)4件 産前・産後ヘルパー派遣事業利用人数26人(延414件)
出産・子育て応援給付金事業	35,848	国県支出金 29,871	5,977	出産応援給付金件数 454 人 子育て応援給付金件数 258 人
ネウボラ DX 事業	15,785	国県支出金 14,122	1,663	電子カルテ(ネウボラカルテ)運用 予防的支援構築システム構築
不妊治療費助成事業, 不育治療費助成事業, 不妊検査・一般不妊治療費助成事業	14,355		14,355	不妊治療申請延件数 52 件 実件数 30 件 先進不妊治療延件数 20 件 実件数 14 件 不妊検査・一般不妊治療申請延件数 29 件 実件数 26 件 不育治療申請延件数 2 件 実件数 2 件 妊娠届出 延件数 39 件 実件数 28 件

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
地域子育て支援センター運営事業	48,502	国県支出金 30,504 その他 15,400	2,598	年間延利用者数(親子総数) <公営> ・三良坂地域子育て支援センター 4,427人 ・北部あそびの広場 139人 ・地域子育て支援センター「すまいる」あそびの広場利用 968人 ・初期通所教室延利用者数 308人 <民営> ・認定みゆきこども園地域子育て支援センター 479人 ・ちゅうおう憩いの森地域子育て支援センター 235人 ・太才町 DASAIYA 1,520人 ・だっこルームみよし 4,694人
こどもの「遊び」推進事業	12,563	その他 5,517	7,046	利用者数 27,790人
保育施設等原油価格高騰対策事業	744	国県支出金 372	372	市内8施設(民間)
保育所 ICT 試験導入事業	7,384	国県支出金 7,000	384	4保育所 工事請負費, 備品購入 ほか
多子世帯保育利用料等の軽減	保育所	国県支出金 43,454	11,496	【国】 対象者 284人 ※対象者: 9月1日時点 ※事業費: 9月の1ヶ月当たりの軽減額×12ヶ月分
			46,371	【単市】 対象者 155人 ※対象者: 9月1日時点 ※事業費: 9月の1ヶ月当たりの軽減額×12ヶ月分
	幼稚園 ほか		3,518	対象施設 6施設 (幼稚園1, 認可外保育所5) 対象者 140人 ※事業費は, 多子世帯保育料軽減補助金交付

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分		事業費	財 源 内 訳		成果指標など
			特 定 財 源	一般財源	
副食費の軽減	保育所	6,255	国県支出金 4,946	1,309	【国】対象者 139 人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あたりの軽減額×12ヶ月分
		29,115		29,115	【単市】対象者 647 人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あたりの軽減額×12ヶ月分
	幼稚園ほか	8,174	国県支出金 668	7,506	幼稚園 250 人 認可外保育施設など 37 人 ※事業費は、副食費軽減補助金交付額
病児・病後児保育事業		9,944	国県支出金 6,508 その他 180	3,256	病児・病後児保育室すくすく 開設日数 244 日 延利用者数 100 人 病後児保育室おひさま 開設日数 294 日 延利用者数 43 人
ひとり親家庭等入学支度金支給事業		1,230	その他 1,230		高等学校等 41 人
ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業		3,082	国県支出金 1,951	1,131	給付人数 2 人
ひとり親家庭等住居確保支援事業		3,335	その他 3,334	1	補助人数 36 人
子育て支援課相談室事業		15,572	国県支出金 7,321	8,251	婦人相談件数 308 件 (実人数 61 人) (うち DV 相談 151 件 実人数 25 人) 児童家庭相談 483 件 (実人数 99 人) 母子・父子自立支援相談 331 件 (実人数 211 人)
計		542,182	345,344	196,838	

ウ 子育てを地域で支える環境づくり

施策の概要

市全体の子育て力の向上をめざし、子育てを地域全体で支援するという意識の醸成を図り、地域で子育てを支える環境づくりに向けて、事業を行いました。

施策の成果

地域ぐるみで子育てを支援するネットワークづくりに努め、子育て中の親や地域の子育て力の向上を図ることができました。引き続き、子どもたちと地域とのつながりを深める取組を推進します。

事務事業の実施状況

■ 子育てサポート事業（子育て支援部）

子育て中の保護者の負担軽減を図るため、子育てを支援してほしい「おねがい会員」と子育てを支援したい「まかせて会員」による相互支援活動を市が仲介し、地域ぐるみでの子育てネットワークを支援しました。

まかせて会員を増やし確実な支援を行うための講習会を開催しました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
子育てサポート事業	3,687	国県支出金 2,116	1,571	活動件数 464 件 活動時間数 1,411 時間 会員数 793 人 (内訳：まかせて会員 154 人、 おねがい会員 571 人、 両方会員 68 人)
計	3,687	2,116	1,571	

(2) 教育 ～ふるさとが子どもを育て、子どもがふるさとを誇りにできるまち～

ア ふるさと三才を愛し、未来を創造する力を育む教育の推進

施策の概要

市費教員（非常勤講師）や学校支援員（教育支援員）の配置により、個に応じた学習指導や支援、ALT（外国語指導助手）を活用した実践的な英語でのコミュニケーション能力の育成に取り組みました。

施策の成果

個に応じたきめ細かい支援などにより、基礎的・基本的な学習内容の定着や学習意欲が向上しています。また、生徒指導上の課題も早期対応・解決が図られています。

事務事業の実施状況

■ 【個々の学び支援事業】（教育委員会）

＜市費教員（非常勤講師）＞

複式学級のある小学校に理科支援教員を配置し、実験補助や理科指導の充実を進めるとともに、外国語指導員を配置し、小学校5・6年生について外国語科の授業を単式で実施するなど、外国語教育の充実に取り組みました。

中学校の数学科において、非常勤講師1人を任用し、個々のニーズや学習の習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を進めました。

＜学校支援員（教育支援員）＞

発達障害等のある特別な支援を必要とする児童・生徒や生徒指導上の課題を抱える児童・生徒など、通常の学級に在籍する特別な配慮が必要な児童・生徒への支援・指導の充実を図るため、校長が必要とする教育活動の支援を目的として、16校29人の学校支援員及び教育支援員を配置しました。

具体的には、通常の学級に在籍する、学習障害（LD）や注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症などにより、生活及び学習上の困難を有する児童・生徒に対し、学習及び生活指導上のきめ細やかな支援や、いじめ、不登校、暴力行為、授業妨害など課題のある児童・生徒が在籍する学級に対する支援、放課後や長期休業中の学習支援などを行いました。また、教務事務補助員を3人配置し、担任等の印刷業務などにかかる業務の軽減を図り、学校での教育活動の充実を図りました。

＜特別支援教育（障害児介助指導員）＞

特別支援教育では、各小中学校において、障害のある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援を行い、能力や可能性を最大限に伸ばし、生きる力を培うことをめざして取り組んでいます。特別支援学級では、児童・生徒の学習や生活介助などのため、障害児介助指導員を23人配置しました。

■ 特別支援活動充実事業（教育委員会）

三次市こども応援センター教育相談員による就学相談や、県・市などの関係機関との連携により、適正な就学指導の支援体制の構築を図りました。

また、就学指導委員会を計画的に開催し、幼児・児童・生徒の教育的ニーズに応じた就学の実現に取り組み、「通級による指導」を小学校7校（自校2校、巡回による指導5校）、中学校3校（自校1校、巡回による指導2校）において実施しました。

さらに、特別支援教育の専門家を派遣し、特別支援に関する指導を行う巡回相談の実施や特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図るための特別支援教育研修会を開催しました。

■ 英語力向上事業（教育委員会）

異文化を理解し尊重する態度や英語で楽しくコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をめざし、ALT11人を小中学校に配置し、小学校3・4年生の外国語活動、小学校高学年及び中学校の英語の授業において、ティームティーチング（複数の教師による授業）を行いました。また、小学校1・2年生を対象として、英語活動を行いました。指導者がALTと対話モデルを見せたり、児童・生徒が学んだ英語を実際に使って、ALTとコミュニケーションを図っています。さらに、授業以外でも、休憩時間や昼食時間、放課後にALTと児童・生徒ができるだけ一緒に過ごしたり、中学生を対象としたイングリッシュキャンプを開催するなど最大限にALTを活用しています。

■ 個々の学習支援事業（教育委員会）

タブレット用ドリルを活用して、既習事項の復習や毎日のドリル学習、家庭学習を行うことで、個々の進度にあわせて学習を進め、児童・生徒の基礎・基本の定着を図ることができました。

また、個々の学習の定着度を測り、学校における課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図るため、全小中学校で令和5年1月に学力到達度検査を実施しました。小学校1・2年生は国語・算数、小学校3年生から6年生までは、国語・社会・算数・理科、中学校では国語・社会・数学・理科・英語について実施しました。小学校と中学校をあわせた全体の正答率は69.1%で全国平均を6.5ポイント上回りました。

■ 体験活動充実事業（教育委員会）

児童の自立心や主体性、より良い人間関係を形成する態度を育てるとともに、ふるさと三次の良さを実感させることを目的として、市内の小学校5年生を対象とし、日常と異なる環境での集団生活の体験や、地域の自然・文化・歴史に触れたり、地域の方々との交流や地域の防災活動に関わる体験などを行っています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、市内19校の小学校が1日または2日の体験活動を実施し、なかには宿泊を伴う活動を実施した学校もありました。実施した学校からは、友達と協働する姿が見られたという報告や、地域の方との交流や体験を通して、地域の良さに改めて気づいたり、地域の支えや防災活動を行う意義を考えたりすることができたという児童の声が聞かれました。

■ 【三次版学校 ICT 活用事業】（教育委員会）

＜GIGA スクールサポート事業＞

インターネット回線など通信環境整備やインターネットを安全に利用するための Web フィルタリングの整備を行いました。

また、児童・生徒のタブレット端末保守や端末の修繕などを行い、ICT の活用を推進しました。

児童・生徒は授業や家庭学習の中で積極的に授業支援アプリを活用しており、一人ひとりに最適で効果的な学びの実現に向けた取組を推進することができています。

＜ICT 教育サポート事業＞

ICT 支援員が定期的に全学校を巡回し、児童・生徒や教職員への ICT 機器の設定や操作指導、ICT を活用した授業づくりの支援を行いました。

児童・生徒は、授業中に困ったことがあれば、ICT 支援員に質問をしており、積極的に ICT 機器を使うことができます。教職員にとっては、授業中に ICT 機器の設定や操作をサポートしてもらえることで、児童・生徒への指導に集中することができます。また、授業以外では、ICT 機器の効果的な活用方法や学習支援ソフトの活用方法などについて ICT 支援員から学び、ICT 機器を活用した効果的な授業づくりにつながっています。

■ オンライン家庭学習つなげる環境支援事業（教育委員会）

家庭において、タブレット端末を活用した学習やオンライン学習の実施など、学びを保障するための家庭の通信環境整備を早期に行うことを目的とし、新たに就学する児童のいる家庭のうち申請された家庭へ1万円を上限とした補助を行いました。

■ 部活動指導員配置事業（教育委員会）

部活動は、生徒の自己肯定感を高めたり、人間関係の構築を図るなど、生徒の学びの場としても意義のあるものです。スポーツや文化活動などの専門的な知識や技能をもつ部活動指導員を配置することで、より一層の部活動の充実と教職員の「働き方改革」の推進をめざしています。

令和4年度は、卓球部2人、バスケットボール部、野球部、サッカー部、ソフトテニス部、吹奏楽部、音楽部に各1人、計8人の部活動指導員を5校に配置しました。配置した全ての学校から、「部活動指導員による単独指導により顧問の負担が軽減されている」という回答が得られています。

■ 学校図書館リニューアル事業（教育委員会）

児童・生徒の知的好奇心を増進し、様々な興味・関心に応える魅力的な学校図書館にするため、学校図書館リニューアル事業として、学校図書の充実及び環境整備に取り組みました。

学校図書の充実では、社会の変化や学問の進展を踏まえ、新しい情報に触れる環境整備や、学校図書館図書標準で定められている冊数の図書を整備できるように学校図書館図書の充足・更新を行いました。環境整備では、学校の図書館が、児童・生徒にとって、ゆっくり読書ができる心地よい空間、また調べ学習や一人学びができる空間となるよう、市内4校の小中学校に、蔵書を収納する書架や移動書架、落ち着いて読書ができるためのカーペット、机や椅子などを整備しました。

さらに市内8校に読書活動推進員を配置し、学校図書館の環境の充実や、児童・生徒の読書活動の推進に向けた取組を行いました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
【個々の学び支援事業】市費教員(非常勤講師)	7,783		7,783	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +6.5 ポイント
【個々の学び支援事業】学校支援員(教育支援員含む。)	61,659	国県支出金 291	61,368	学校支援員及び教育支援員数 29 人
【個々の学び支援事業】特別支援教育(障害児介助指導員)	43,555		43,555	障害児介助指導員数 23 人
特別支援活動充実事業	4,334		4,334	研修会の実施 3 回(受講者 82 人) 通級による指導を増設(中学校)
英語力向上事業	58,997		58,997	三次市学力到達度検査(英語)における平均正答率の全国平均正答率比 -1.5 ポイント(中学)
個々の学習支援事業	9,621		9,621	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +6.5 ポイント
体験活動充実事業	823		823	体験活動が、より良い人間関係の形成につながるように内容の工夫をした学校 19 校/19 校
【三次版学校 ICT 活用事業】GIGA スクールサポート事業	31,534	国県支出金 4,851	26,683	ICT 機器を活用した授業を週 1 回以上行った学校 95.2%
【三次版学校 ICT 活用事業】ICT 教育サポート事業	9,570		9,570	ICT 支援員学校訪問回数 延 127 回
オンライン家庭学習つなげる環境支援事業	54		54	支援事業利用 6 件
部活動指導員配置事業	3,587	国県支出金 2,358	1,229	部活動指導員 8 人配置
学校図書館リニューアル事業	11,813		11,813	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館図書標準における図書の充足率 90%以上が全体の 70% (23 校/33 校) ・環境整備 4 校実施 ・読書活動推進員 8 校巡回
計	243,330	7,500	235,830	

イ 学校・家庭・地域の協働による教育力の向上と補完機能の強化

施策の概要

学校・家庭・地域が協働して地域の将来を担う子どもたちを育てるため、社会教育委員や地域学校協働活動推進員をはじめ、地域住民が連携した組織づくりに向けた取組を行いました。

施策の成果

本市には、甲奴地区と三次地区に2つの家庭教育支援チームがあり、ピーナッツの栽培や図書室の整備などを行いました。市コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた研修会も実施し、地域全体で子どもたちの成長を支えるとともに、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働できるよう、地域住民が連携した組織づくりを進めました。

事務事業の実施状況

■ 社会教育委員の活動（教育委員会）

学校・家庭・地域の連携について、家庭教育支援チームの育成や家庭教育支援の啓発などを引き続き行うことを念頭に活動しました。

■ 家庭教育の充実（教育委員会）

家庭教育の充実を図るため、学校や子育て支援センターなどで「親の力」を学びあう学習プログラムを活用し、子育てや、親や地域の役割について、意見交流を行いました。計32回行い、延337人が参加しました。



三良坂中学校
（「親の力」を学びあう学習プログラム）

■ 青少年育成講演会（教育委員会）

「生きる力」を育み、主体的に役割を果たすことのできる青少年を育成するため、布野中学校生徒14人と保護者6人、十日市中学校生徒106人を対象に、青少年育成講演会「性と生を考える」を開催しました。講演会では、体と性についての正しい知識と、お互いを思いやりコミュニケーションをとることが、命と体を守ることにつながるということを学びました。

「性と生を考える」講演会



布野中学校



十日市中学校

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
青少年育成講演会	62		62	中学生とその保護者を対象に講演会を実施 126人
計	62		62	

■ 高校生地域活動支援事業補助金（教育委員会）

郷土に愛着と誇りを持つ人材の育成を目的に、市内高等学校の生徒が取り組む地域振興または地域貢献に関する活動などを支援しました。

この事業を活用し、三次青陵高等学校は、令和3年度に本事業で製作し配布した「足踏み式消毒液スタンド」のメンテナンス及び修理を行い、継続して使用できるよう取り組まれました。また、塩町中学校区の小学校4校の6年生を対象に、プログラミング教室が開催されました。

日彰館高等学校では、吉舎駅周辺などの地域清掃ボランティアにより、地域へ感謝する心を育む取組が行われました。また、市内2ヶ所の保育所園児と保育士を招待して人形劇の会を開催し、交流を深めました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
高校生地域活動支援事業補助金	444		444	三次青陵高校 ・足踏み式消毒液スタンド 11台メンテナンス及び修理 プログラミング教室開催 (4小学校) 日彰館高校 ・地域清掃, 草刈り活動(年 3回) ・人形劇開催(2保育所) ・「ようこそ先輩」講演開催 (年8回)
計	444		444	

ウ 活力と信頼の学校づくり

施策の概要

子どもたちが安全・安心に学校で学び、生活するために、生徒指導体制の確立と教育相談の一層の充実を図り、不登校対策や問題行動に迅速、適切に対応しています。

また、学校施設整備事業に取り組み、ソフト面・ハード面ともに、より良い教育環境の整備に努め、保護者、地域から信頼される学校運営を行いました。

施策の成果

子どもたちの教育環境の整備などを図るため、通級学級や特別支援学級新設にかかる教室整備をはじめとした学校施設整備事業、スクール便運行事業及び児童生徒安全確保緊急メール事業を行いました。

不登校傾向の児童・生徒やいじめなどの早期発見・早期対応に向けて、学校、家庭及び関係機関が連携し、不登校の解消やいじめ問題の解決に取り組みました。特に、教室に入りづらい児童・生徒の居場所として学校内学習室を設け、個別に支援を行うとともに、三次市教育支援ルーム（適応指導教室）の取組や環境の充実を図りました。

学校・家庭・地域が協働して小中一貫教育を推進し、中学校区全体で開かれた学校づくりを進め、児童・生徒の自己肯定感の向上や基礎的・基本的な学習内容の定着を図りました。

また、学校と地域が協働し、社会総がかりで未来を担う子どもを育成するため、学校運営協議会制度を取り入れ、令和4年度は三次中学校区にコミュニティ・スクールを導入しました。

事務事業の実施状況

■ 学校施設整備事業（教育委員会）

特別な配慮が必要な児童・生徒が学習する特別支援学級の 신설にかかる教室整備をはじめ、多数の施設整備を進め、各学校の学習環境の整備を図ることができました。

■ スクール便運行事業（教育委員会）

学校統廃合に伴う遠距離通学の児童・生徒（一部保育所含む。）に対して、バス・タクシーを含め、26路線のスクール便を運行しました。

■ 児童生徒安全確保緊急メール事業（教育委員会）

市内の児童・生徒の保護者に対し、不審者や災害などの発生情報を、電子メールを利用した一斉配信で速やかに伝達することにより、児童・生徒の安全確保を図ることを目的に緊急メール事業を引き続き行いました。学校においては、警報等の発表による臨時休校などの連絡や不審者情報、学校行事における情報伝達などに活用しています。

■ いじめ防止・不登校対策推進事業（教育委員会）

教職員を対象に、いじめの未然防止や不登校解消に向けた研修会を開催し、いじめを許さない風土づくりやいじめの早期発見・早期対応、中1ギャップの解消、不登校の未然防止に努めています。

また、総合質問紙調査を実施して、子どもたちの学級環境や社会性などを分析し、学級経営の充実や教師と子どもたちの信頼関係、子どもたち相互の好ましい人間関係を育てるために活用しました。

三次市子ども応援センターや三次市教育支援ルーム（適応指導教室）においては、教育相談員や青少年指導相談員、スクールカウンセラーによる相談体制の充実を図り、学校や子ども、その保護者からの就学や不登校などの不安や悩みに対して相談・助言を行い、悩み解消に向けての取組を進めました。

さらに、市内小中学校に、三次市スクールサポーターを派遣し、学校内外を巡回したり、教職員へ生徒指導対応などの助言を行い、安全・安心な学校づくりを推進しています。

■ 小中一貫教育充実事業（教育委員会）

義務教育9年間を一体のものとしてとらえ、同じ中学校区の小中学校がめざす子ども像や教育目標を共有し、子どもたちの能力や個性を豊かに伸ばすために取り組みました。小学校・中学校の合同行事や交流会のほか、合同ゲストティーチャーを招いて学習をするなど、各校で工夫した取組を進めました。

キャリア教育を軸とした、共通の教育課程「コアカリキュラム」と、各中学校区の特色を活かした「オリジナルカリキュラム」を全ての中学校区で行い、児童・生徒の成長につながる取組を進めるとともに、地域や児童・生徒の実態を踏まえた各学校の実践研究の推進や、各中学校区の取組をまとめた小中一貫カレンダーや小中一貫だよりなどを作成し、広く情報発信しました。

また、三次中学校区をモデル地区に指定し、中学校区に一つの学校運営協議会を設置して、コミュニティ・スクールを導入しました。これまで取り組んできた小中一貫の取組をさらに充実・発展させていきます。



リトルティーチャー（塩町中学校区）



体験入学・中学校教員による出前授業
（作木中学校区）



小・中学生合同授業 プロジェクト学習（みらさか学園）

■ 学校給食調理場整備事業（教育委員会）

三次市三次学校給食センターの整備では、建築主体工事，電気設備工事，機械設備工事，工事監理業務及び受配校改修工事を行いました。また，給食配送車7台，食器，食缶，配膳器具，食器カゴなどの備品や消耗品の購入契約を締結しました。

三次市三次学校給食センターに三次産農産物を納入していただく出荷者を募集し，「第1回出荷者連絡協議会」を開催しました。

「（仮称）三次市新学校給食調理場運営検討委員会」を5回開催し，調理場でのアレルギー対応や給食費について決定しました。

■ （新）小中学校老朽化対策事業（教育委員会）

老朽化した三次小学校の改築に向けて，基本・実施設計業務に着手しました。

「三次市立三次小学校整備事業に関する検討委員会」及びワークショップを各3回開催するとともに，児童や教職員などの意見を伺うヒアリングを実施し，関係者の意見を可能な限り反映できるように取り組みました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など	
		特 定 財 源	一般財源		
学校施設整備事業 《下段：繰越明許分》	53,645	国県支出金 起債	5,478 30,700	17,467	作木中学校防火シャッター改修工事 吉舎小学校受水槽取替工事ほか
	56,430	国県支出金 起債	17,837 34,300	4,293	八次小学校トイレ改修工事(Ⅱ期) 特別支援学級等改修工事ほか
学校周辺整備事業 《下段：繰越明許分》	42,708	起債	42,700	8	三次中学校テニスコート整備工事
	50,557	起債	50,500	57	三次中学校テニスコート土地購入
調理場施設設備等 整備事業	8,113	起債	8,100	13	作木学校給食共同調理場空調機更新工事
スクール便運行事業	121,683	国県支出金	1,335	120,348	路線数 26 路線 利用者数 244 人
児童生徒安全確保 緊急メール事業	558			558	活用状況 ・感染症対策にかかる学級閉鎖や 気象警報発令による臨時休業の 連絡 ・学校行事などの情報共有 ・不審者情報の共有 など
いじめ防止・不登校 対策推進事業	19,655			19,655	「学校は楽しい・好きだ」と、肯定的に答えている児童・生徒の割合85%以上(令和4年度広島県児童生徒学習意識等調査[小5・中2]の結果86.3%)
小中一貫教育充実 事業	1,840			1,840	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比+6.5ポイント
学校給食調理場整備事業 《下段：逡次繰越分》	355,148	国県支出金 起債	41,689 313,400	59	(仮称)三次市新学校給食調理場 建設工事 (仮称)三次市新学校給食調理場 建設に伴う配食校改修工事 ほか
	914,980	国県支出金 起債	100,122 814,700	158	(仮称)三次市新学校給食調理場 建設工事 (仮称)三次市新学校給食調理場 敷地造成工事
小中学校老朽化対策事業	3,358	起債 その他	300 2,150	908	地形測量業務ほか
計	1,628,675		1,463,311	165,364	

(3) スポーツ・文化 ～学びたい気持ちを応援するまち～

ア “スポーツのまちみよし”の実現

施策の概要

子どもから高齢者まで、全ての市民がそれぞれのライフステージに応じたスポーツとの関わり方を考え、「いつでも」「どこでも」「誰も」が普段の生活の中で自然とスポーツに親しみ、健康でいきいきと活力あふれる“スポーツのまちみよし”の実現をめざし、市民誰もがスポーツを楽しめる環境づくりのほか、スポーツを支える人材の育成、スポーツ施設を活用した合宿や大会の誘致などに取り組みました。

施策の成果

住民自治組織や学校、企業、総合型地域スポーツクラブなどの関係団体と連携し、スポーツを通じた一体感の醸成と、ライフステージに応じたスポーツの実施、スポーツによる健康づくりへの意識の向上という効果が得られました。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの大会やイベントが中止になる中、対策を講じながら複数の事業が開催され、市民のスポーツへの関心度や活力向上が図られました。

特に、令和2年12月に認定を受けた「女子野球タウン」の取組については、2022年中四国女子硬式野球リーグ「ルビー・リーグ」、第8回女子硬式野球西日本大会、侍ジャパン女子代表（マドンナジャパン）合宿の誘致や開催支援により、女子野球の盛り上げにつなげました。引き続き、女子野球の合宿・大会誘致に継続的に取り組みながら、地域や各関係組織などとの連携により、女子野球を盛り上げていくことで、女性の活躍や関係人口の拡大、地域活性化につなげていけるよう取組を進めていきます。

事務事業の実施状況

■ 三次市チャレンジデー2022（地域振興部）

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、個人及び家族単位での参加を対象とした「三次市チャレンジデー2022」を対戦型ではないオープン参加としました。コロナ禍での運動啓発として、市広報紙、市ホームページ、チラシのほか、Facebook（フェイスブック）やLINE（ライン）、Twitter（ツイッター）などのSNSを活用した情報発信を行い、コロナ禍により、参加者の目標設定が困難な状況にも関わらず、前年を大きく上回る3,065人の参加がありました。

■ 女子野球観戦・交流事業（地域振興部）

令和2年12月の「女子野球タウン」認定に伴い、大会誘致として、2022年中四国女子硬式野球リーグ「ルビー・リーグ」を4月から11月にかけて開催するとともに、選手、コーチによる野球教室を開催し、「スポーツのまちみよし応援事業実行委員会」を中心に、各関係組織・団体、企業などと連携して、女子野球を盛り上げました。

引き続き、地域や各関係組織と連携を図りながら、女子野球の合宿・大会誘致に継続的に取り組み、本市に女子野球の文化が根付くよう取り組んでいきます。

本市を拠点とし活動されている女子野球チーム（ブレイブガールズ広島）の練習に、中四国女子硬式野球アンバサダーの浅井 樹氏（元広島東洋カープ選手）の派遣を受け、定期的に指導をしていただきました。

また、広島東洋カープが広島県軟式野球連盟から依頼を受け、令和5年7月に開催される「NPB ガールズトーナメント」に向けて実施する練習選考会の運営支援などを行い、練習環境の充実や技術向上につながりました。

今後も、広島東洋カープや中四国女子硬式野球連盟などと連携し、地元女子中学生野球チームを中心に女子野球の体験・交流機会などを増やすことで、多くの女性が野球を続けられ、夢を追い続けることができる環境を整えていきます。



第8回女子硬式野球
西日本大会



中四国女子硬式野球
「ルビー・リーグ」



浅井アンバサダー定期指導

■ 各種スポーツ大会の開催（地域振興部）

三次市体育協会やスポーツ少年団、市内各地域が行う市民の体力づくりの取組や市民が進んで参加できる多種多様なスポーツ大会を支援しました。このことにより、参加機会の拡大と市民スポーツ活動の振興につなげました。

京都で行われる全国大会への出場をかけた広島県高等学校駅伝競走大会では、男子の部 35 チーム、女子の部 29 チーム（男女あわせて約 560 人）の参加がありました。

区 分	内 容	参加者数
スポーツ大会	名称 男子 73 回・女子 39 回広島県高等学校 駅伝競走大会 月日 令和 4 年 11 月 6 日	男子：35 チーム 女子：29 チーム
	名称 県民体育大会出場	104 人
スポーツイベント	名称 チャレンジデー 月日 令和 4 年 5 月 25 日	参加者数 3,065 人
スポーツ・文化芸術報奨	名称 世界大会・全国大会出場	全国大会 66 件

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
スポーツのまちみ よし応援事業(女子 野球観戦・交流事 業)	1,685	国県支出金 842	843	中四国女子硬式野球リーグ 14 チーム 女子硬式野球西日本大会 29 チーム
男子 73 回・女子 39 回広島県高等学校 駅伝競走大会	2,800		2,800	男子：35 チーム 女子：29 チーム
県民体育大会出場	146		146	104 人
世界大会・全国大会 出場	980		980	全国大会 66 件
計	5,611	842	4,769	

■ (新) カーター記念球場トイレ改修事業(地域振興部)

カーター記念球場のトイレは、これまで汲み取り式の男女兼用和式便器で、各 1 ヶ所しかないなど、衛生面や使用面で課題がありました。ふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディング(ガバメントクラウドファンディング)により、男女別々の水洗洋式便器に改修し、快適で衛生的な利用環境を確保しました。



カーター記念球場トイレ改修事業

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
カーター記念球場 トイレ改修事業	13,020	起債 10,800 その他 2,178	42	カーター記念球場トイレの改修 ・男子トイレ 1 ヶ所 ・女子トイレ 1 ヶ所
計	13,020	12,978	42	

イ スポーツを通じて子どもの夢を応援！

施策の概要

プロ選手やトップアスリートを招いてのスポーツ教室の開催など、あこがれの選手と身近に接し、指導を受けることで、技術の向上だけでなく、スポーツに対する関心と向上心を高め、夢をもって前向きに進んでいく子どもを育てます。

施策の成果

プロ選手やトップアスリートによるスポーツ教室では、技術指導だけでなく、トップアスリートと身近に接し、ハイレベルの技術を目の当たりにしながら指導を受ける中で、子どもたちは感動を覚え、スポーツに対する意識や向上心がより高揚するなど、自分の夢を育むきっかけづくりに取り組みました。

事務事業の実施状況

■ 「トップアスリートによるスポーツ教室」の開催支援（地域振興部）

広島ドラゴンフライズの選手・コーチによるバスケットボール・クリニックの開催支援のほか、アンジュヴィオレ広島のコーチによる年間を通しての女子サッカースクールの開催支援、現役プロ野球選手、コーチから指導を受ける「三次市野球教室inきみた」「野球がもっとすきになるデイ」などの開催支援、中四国女子硬式野球「ルビー・リーグ」参加チームの選手による女子小中学生を対象とした野球教室、第93回都市対抗野球大会で優勝したENEOS株式会社野球部による女子野球教室の開催支援などを行い、参加者からは「とても参考になった。これからの練習や試合に活かしたい」などの感想をいただき、子どもたちがより高度な技術を修得できる機会を設けました。

スポーツ少年団や中学生の子どもたちがトップアスリートから指導を受け、競技力の向上と意識の高揚が図られました。



広島ドラゴンフライズによる
バスケットボール・クリニック



ENEOS 株式会社野球部による
女子野球教室

■ 「プロスポーツ応援事業」の開催支援（地域振興部）

日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ1部）公式戦を誘致し、みよし運動公園陸上競技場で開催された公式戦の運営支援及び入場券購入補助を行いました。

当日は418人の幅広い世代の三次市民の来場があり、トップレベルのサッカーを観戦する機会をつくることができました。



日本女子サッカーリーグ公式戦開催
（みよし運動公園陸上競技場）

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
広島ドラゴンフライズによる バスケットボール・クリニック	100		100	参加者 40人
三次地区女子サッカー応援プ ロジェクト	414		414	参加者 延100人
アンジュヴィオレ広島公式戦 観戦支援	319		319	観客数 418人
中四国女子硬式野球リーグ 「ルビー・リーグ」	200		200	年間19試合 14チーム参加
侍ジャパン女子代表強化合宿	2,000		2,000	
計	3,033		3,033	

ウ 三次の文化・芸術の発展継承と創造

施策の概要

文化・芸術施設では、令和4年度も引き続き、徹底した感染症対策を行い、安心して施設利用していただけるよう取り組むとともに、文化・芸術の発展や継承に努めました。

奥田元宋・小由女美術館では、引き続きリニューアル事業を行いました。

また、本市名誉市民である奥田小由女さんの文化勲章受章を記念して、シンポジウムなどの記念行事を開催しました。

三次の子どもたちの健やかで心豊かな成長を願う真田一幸さんの寄附を財源として創設した「真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業」では、子どもを対象としたスポーツ・文化団体に対する補助金の交付や、スポーツや文化を通して子どもたちの活動を支援するために用具の購入を行いました。

施策の成果

奥田元宋・小由女美術館については、防犯カメラシステムの改修工事を行いました。改修したことにより、来館者の方が安心して美術館をご利用いただけるようになりました。

また、奥田小由女文化勲章受章記念行事の開催を通じて、子どもたちをはじめ、多くの皆さんに夢と希望に向かって取り組むことの大切さを感じる機会を提供しました。シンポジウムなどには、著名な芸術家に参画していただき、市外からの来場も多くあり、本市の文化・芸術の発信と認知度向上につながりました。

ジミー・カーターシビックセンターでは、「平和学習センター」展示コンテンツ改編業務と老朽化による空調設備の更新にかかる設計などの業務を行いました。

三次市民ホールでは、「三次市民ホール運営委員会」を開催し、「きりり美術館」などの事業に対する前向きな意見をいただくなど、活発な議論が行われました。

令和4年度は、コロナ禍ではありましたが、事業の実施について前向きに検討し、再開できた事業もありました。今後コロナ後に向けて、市民の文化・芸術への好奇心にこたえられるよう、事業の展開に努めます。

事務事業の実施状況

■ 美術館の運営とネットワーク事業（教育委員会）

美術館の運営は、4館とも指定管理者による効率的な管理・運営が行われ、各館の個性を活かした常設展や魅力的な企画展、ロビーコンサートなどのイベントが開催されました。

美術館の入館者は、奥田元宋・小由女美術館が54,175人、はらみちを美術館は4,700人、美術館あーとあい・きさは3,841人（吉舎歴史民俗資料館含む。）、三良坂平和美術館は8,118人でした。

■ 奥田元宋・小由女美術館展示室リニューアル事業（教育委員会）

来館者の方が、より安全に安心して美術館をご利用いただけるように、館内の防犯カメラシステムを改修しました。

これまでよりも、映像の解析度などが上がり、より鮮明に映像確認ができるようになりました。

■ (新) 奥田小由女文化勲章受章記念行事 (経営企画部・教育委員会)

本市名誉市民である奥田小由女さんの文化勲章受章を記念して、奥田元宋・小由女美術館での特別展「奥田小由女展—元宋作品とともに」と、「奥田小由女文化勲章受章記念シンポジウム」の文化勲章受章記念行事を開催しました。奥田元宋・小由女美術館での特別展には、期間中(令和4年4月29日～6月24日)に、5,396人の入館がありました。

また、シンポジウムでは、「未来へつなぐ芸術の力」をテーマに、奥田小由女さんや金工作家 宮田亮平さん、日本画家 千住博さんの3人の著名な芸術家によるパネルディスカッションのほか、ピアニスト 萩原麻未さんのコンサートを開催し、市内外から750人の来場がありました。



特別展「奥田小由女展—元宋作品とともに」
開会式



「奥田小由女文化勲章受章記念シンポジウム」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
奥田元宋・小由女美術館リニューアル事業	127,528	起債 127,500	28	防犯カメラシステム改修工事 中央監視システム改修工事 設計業務 空調設備改修工事
奥田小由女文化勲章受章記念行事	4,800		4,800	特別展「奥田小由女展—元宋作品とともに」入館者数 5,396 人 「奥田小由女文化勲章受章記念シンポジウム」来場者数 750 人
ジミー・カーターシビックセンター改修事業	3,768	起債 700	3,068	「平和学習センター」展示コンテンツ改編業務 冷温水配管劣化診断業務
計	136,096	128,200	7,896	

■ 真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業（教育委員会）

子どもを対象としたスポーツ・文化の振興及び育成を図るため、58 団体に真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金を交付しました。また、三和総合運動公園やカーター記念球場、甲奴水泳プールで使用する用具を購入しました。

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金＞ (単位：千円)

団体種別	補助対象活動	件数（件）	補助金額
スポーツ系	団体運営	48	3,898
	大会等開催	5	452
文化系	団体運営	4	305
	大会等開催	1	43
計		58	4,698

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業用具整備＞ (単位：千円)

用具種別	品名等	件数（件）	購入金額
スポーツ系	ダイヤモンドカバー 3	3	2,347
	バッティングゲージ 1		
	プールフロア 6		
計		3	2,347

■ 三次市民ホールにおける事業（教育委員会）

三次市民ホールでは、芸術文化の振興及び交流を図り、芸術文化活動の発信拠点及び賑わい創出の場となるよう、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮し、次のような育成事業を実施しました。

みよし KIRIRI 児童合唱団は、定期練習を行い、広島県少年少女合唱連盟定期演奏会などに参加しました。

人形劇団きりりは、保育所などでの訪問講演を行いました。

きりり倶楽部共同事業として、楽楽ゼミナールやティーブレイクコンサートなどを実施しました。

吹奏楽マスタークリニックは、広島ウインドオーケストラ団員が講師となり市内の中学校吹奏楽部などのレッスンを実施しました。

きりりヤング・ステージ・コレクションでは、中高生をはじめとする、青少年が気軽に芸術文化活動の成果を、ジャンルを問わず発表できる事業として実施しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次市民ホール 事業	112,953		112,953	<ul style="list-style-type: none"> ・きりり倶楽部共同事業 500人 ・吹奏楽マスタークリニック 45人 ・レジデンスプログラム 23人 ・きりりヤング・ステージ・コレクション 257人 ・ホール開放 大ホールひとりじめ! 68人 ・きりりこどもコンシェルジュ 2人 ・ホール体験 きりりグランメイズ 41人 ・きりりスペシャルライブ 849人 ・きりりパワーライブ 668人 ・きりりプレミアムクラシック 138人 ・ワールド・アーティスト in きりり 153人 ・きりりドラマチック・ステージ 188人 ・きりりファミリー劇場 1,500人 ・人形のまち みよしシリーズ 41人 ・みよし伝統文化・芸能フェスティバル 800人 ・きりりハートフルライブ 672人 ・みよし KIRIRI 児童合唱団定期演奏会 100人 ・きりりほっとコンサート 771人 ・きりりシネマ倶楽部 1,599人 ・きりりこども人形劇場 83人 ・きりりびよびよコンサート 78人 ・きりり美術館 延 9,000人 ・きりりわくわくアートフェスティバル 延 1,000人 ・きりりびよびよ音楽室 延 200人 ・きりりにんぎょうニュータウン 延 500人
計	112,953		112,953	

■ 子ども文化芸術ふれあい事業（教育委員会）

「スポーツ・文化みよし夢基金」を財源とするもので、市内の美術館鑑賞などコロナ禍でも実現可能な取組を行いました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
子ども文化芸術 ふれあい事業	1,151	その他 1,151		<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学生芸術鑑賞事業 市内美術館等の見学鑑賞 630人 ・三次きらきらコンサート 中学校 6 校生徒 83 名参加
計	1,151	1,151		

工 歴史・伝統・文化の継承と発展

施策の概要

文化財は、地域の歴史や文化などを正しく理解し、これからのまちづくりを考えるための基礎となる貴重なものです。その文化財を守り、伝えることで、地域に誇りをもって生活できるようになることをめざし、事業に取り組みました。

施策の成果

指定文化財の保護のため、史跡寺町廃寺跡整備事業として、これからの適切な保存と活用に向けた取組の方針と方向性をまとめた保存活用計画の策定に取り組みました。

辻村寿三郎人形館展示支援事業では、企画展を開催し、県内外からも来館があり、本市ゆかりの作家の芸術を発信しました。

事務事業の実施状況

■ 文化財保護事業（教育委員会）

文化財を後世に残していくために、所有者や地域の協力を得ながら、維持管理に努めました。

また、国や県などと情報の共有を図り、重要文化財奥家住宅などの調査を行いました。

出前講座では、小中学校や町内会などを対象として、計9回、延351人の参加をいただき、文化財の保護の大切さについて、積極的な普及啓発を行いました。

■ 史跡寺町廃寺跡整備事業（教育委員会）

文化庁や広島県教育委員会文化財課と協議し、史跡を取り巻く現状と課題の整理を行い、今後の保存と活用に向けた取組の方向性をまとめた保存活用計画の策定に取り組みました。計画の策定にあたっては学識有識者などからなる策定委員会を設置し、計3回の委員会を実施しました。加えて、シンポジウム「史跡寺町廃寺跡（推定三谷寺）を語る」を開催し、市内外、県外からも約200人の参加があり、積極的な普及活動に取り組みました。

また、地元の和田小学校では、地域の方の協力のもと、史跡寺町廃寺跡についての学習を現地見学も行いながら実施しました。みらさか小学校でも学習の機会を設け、郷土の文化財の普及に努めました。



保存活用計画策定委員会



シンポジウム「史跡寺町廃寺跡（推定三谷寺）を語る」

■ 辻村寿三郎人形展示支援事業（教育委員会）

辻村寿三郎人形館を運営する一般社団法人 寿三郎みよしに対して補助金を交付し、企画展として「泉鏡花の世界」「樋口一葉の世界」が開催されました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
史跡寺町廃寺跡 整備事業	2,003	国県支出金 1,001	1,002	保存活用計画の策定 関係機関との協議
辻村寿三郎人形 展示支援事業	7,799		7,799	泉鏡花の世界（前期） 1,817 人 樋口一葉の世界（後期） 2,129 人
計	9,802	1,001	8,801	

才 学ぶ気持ちを応援する生涯学習の推進

施策の概要

市民の学ぶ気持ちを応援するため、学習機会の提供や、図書館活動の充実を図りました。

施策の成果

令和4年度も引き続き、徹底した感染症対策を行い、安心して施設を利用していただけるよう取り組みました。図書館については、蔵書を利用しやすいよう書架整理を行うとともに、除籍を計画的に行い、蔵書の新陳代謝を図るなど、市民の学びたい気持ちを支援しました。

事務事業の実施状況

■ 図書館事業（教育委員会）

図書館の蔵書について、各館の容量や市民ニーズを勘案し充実を図りました。また、利用促進のため、季節や時事に応じた展示をするなど充実した展示コーナーになるよう取り組みました。子どもの読書活動への支援として、保育所・小学校への定期配達による貸出や、小中学校への職員派遣、見学の受入れを行いました。また、「子ども司書養成講座」を実施しました。加えて、年間を通じて各館で企画した特集展示を行いました。「まるごと一日わいわい図書館」などのイベントを企画し、多くの方が気軽に立ち寄れる図書館をめざしました。

三次市重要文化財の「往来本」は、一部デジタル化しホームページ上で誰でも閲覧できるよう公開しています。

<図書館利用状況>

図書館名	個人登録数（人）		貸出冊数（冊・点）		開館日(日)	来館者数(人)
	令和3年度末	令和4年度末	令和3年度	令和4年度	令和4年度	令和4年度
三次市立図書館	35,554	36,126	180,589	176,532	317	109,040
三次市立君田図書館			13,771	16,467	313	4,360
三次市立布野図書館			20,606	13,870	313	3,899
三次市立作木図書館			14,984	15,168	311	4,289
三次市立吉舎図書館			28,245	26,400	312	8,564
三次市立三良坂図書館			31,602	30,059	313	6,970
三次市立三和図書館			19,463	19,748	313	3,811
三次市立甲奴図書館			23,600	21,667	313	3,395
合計	35,554	36,126	332,860	319,911	-	144,328

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

<図書資料>

図書館名	蔵書数（冊・点）	
	令和3年度	令和4年度
三次市立図書館	156,053	156,565
三次市立君田図書館	15,485	15,013
三次市立布野図書館	15,274	15,101
三次市立作木図書館	19,503	19,516
三次市立吉舎図書館	17,093	17,571
三次市立三良坂図書館	17,816	17,971
三次市立三和図書館	34,506	34,298
三次市立甲奴図書館	29,117	28,962
合計	304,847	304,997

（単位：千円）

区分	事業費	財源内訳		成果指標など
		特定財源	一般財源	
図書館事業	101,754		101,754	自主事業参加者（延人数） おとなの寺子屋公開講座 44人 本のメッセージカードコンクール 655人 出前講座 870人
計	101,754		101,754	

カ 国際交流の推進

施策の概要

海外の姉妹・友好都市などとの国際友好親善及び国際協力推進並びに国際的な人材の育成及び市内在住外国人への支援を図るため、一般財団法人三次国際交流協会の運営を支援するとともに、連携して事業を推進しました。

施策の成果

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、市内在住外国人支援を行うとともに、国際理解の促進を図りました。

本市とアメリカ合衆国アメリカス市との国際交流に関連して、甲奴町正願寺由来の梵鐘の鐘楼堂竣工を受け、両国間の交流のさらなる深化を目的として、市長、市議会議長をはじめとする公式訪問団を派遣しました。訪問団は、アトランタ市内での記念式典に参加したほか、アメリカス市長など関係者との交流を深めました。

また、市内高等学校を対象としたグローバル人材育成事業では、地域異文化交流事業に対して補助金を交付し、地域における異文化理解の促進を図りました。

一方、子どもたちの海外友好・交流都市との訪問・受入れなどの交流事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、安全性を考慮し事業中止となりました。

事務事業の実施状況

■ 国際交流推進事業（地域振興部）

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、在住外国人が暮らしやすい環境づくりを推進するため、市内及び近郊の外国人居住者を対象とした生活相談を、通年で週に1回開催しました。言葉や生活習慣の違いから生じる各種相談が年間51件ありました。

また、人道支援、国際貢献の観点から、ウクライナの支援のため、一般財団法人三次国際交流協会と連携し、ウクライナ人道危機救援募金の受け付けを実施しました。

■ グローバル人材育成事業（地域振興部）

令和3年度から市内3つの高等学校を対象に開始した「三次市グローバル人材育成事業補助金」では、日彰館高等学校において、留学生との町歩きガイドツアーや留学生による母語の講座を受講するなど、209人の生徒が参加しました。

■ （新）「平和の鐘」プロジェクト公式訪問団派遣事業（甲奴支所・経営企画部）

令和4年9月29日から10月4日までの日程で、アメリカ合衆国アトランタ市及びアメリカス市に公式訪問団を派遣しました。9月30日にアトランタ市内で開催された鐘楼堂竣工記念式典では、市長から梵鐘が取り持つ縁で始まった国際交流の歴史を踏まえて祝意を伝えました。アメリカス市では同市長、カーター元大統領の親族などと交流を深めました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」



カーターセンター（アトランタ市）での鐘楼堂竣工記念式典



竣工記念式典であいさつする福岡市長



アメリカス市での交流

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
グローバル人材育成事業	147		147	補助金交付 2件 高校生参加者 209人
「平和の鐘」プロジェクト公式訪問団派遣事業	5,692		5,692	公式訪問団員 6人
計	5,839		5,839	

(4) 男女共同参画・平和・人権 ～みんなが協力してつくる、人にやさしく住みよいまち～

ア 男女がともに活躍できる環境の充実

施策の概要

「三次市男女共同参画基本計画(第4次)～一人ひとりがしあわせな社会をめざして～」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けて、市民を対象とした啓発事業の実施と女性保護対策の充実などに取り組みました。あわせて、女性の活躍推進のため、セミナーや啓発事業を行い、子育てしながら働きやすい環境づくりへ向けた取組を行いました。

施策の成果

三次市男女共同参画基本計画(第4次)に基づき、男女共同参画の理解の浸透と女性活躍の機運醸成を図るとともに、新型コロナウイルス感染症感染拡大により経済的に影響を受けた女性への緊急支援として、生理用品の無償配布を行い、女性に寄り添った支援策を展開しました。

事務事業の実施状況

■ 男女共同参画推進事業(地域振興部)

令和3年3月に策定した「三次市男女共同参画基本計画(第4次)～一人ひとりがしあわせな社会をめざして～」の基本的な考え方や計画の推進について周知を図るため、男女共同参画週間にあわせ、市広報紙で特集を組んだほか、市ホームページ、市役所ほっとニュースなどを活用して啓発に取り組みました。

また、家庭や地域、職場などのあらゆる場における男女共同参画の理解の浸透と女性活躍推進を図る必要があることから、男女共同参画推進講演会講師派遣事業の対象に住民自治組織を加え、地域における男女共同参画の推進に努めました。あわせて、三次市女性連合会の活動を支援し、講演会などを通して男女共同参画を推進しました。

■ 生理用品無償配布事業(地域振興部)

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響などにより、経済的に生理用品の購入が難しい方への緊急支援として、生理用品の無償配布を実施しました。本事業の実施に際し、三次商工会議所女性会からご寄附いただいた生理用品を活用させていただき、408セット配布しました。配布する袋の中には、各種相談窓口を掲載したチラシを同封し、経済的な支援を行うとともに、相談支援先の周知を図りました。

■ (新) 三次市パートナーシップ宣誓制度(地域振興部)

市では、三次市男女共同参画基本計画(第4次)において、「性の多様性への理解の促進」を具体的施策としており、性的マイノリティの方の生きづらさや不安を軽減するとともに、差別や偏見の解消や理解の促進のため、令和5年1月1日からパートナーシップ宣誓制度を導入しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
男女共同参画推進事業	2,299		2,299	男女共同参画審議会1回開催 男女共同参画推進講演会 参加者 39人 国際女性デー 参加者 350人
生理用品無償配布事業	4		4	生理用品配布 408セット
性の多様性に関する職員研修会	78		78	研修会講師謝礼 参加者 118人
計	2,381		2,381	

イ 平和を願う思いの継承と市民意識の高揚

施策の概要

被爆者や戦争体験者の高齢化に伴い、原爆と戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。そうした中で、戦争体験の継承と平和の尊さの次世代への継承、そして、恒久平和の願いを市民へ呼びかける事業を行いました。本市では、市民が身近なことから平和に関心を持ち、考えられるよう、広島東洋カープの協力を得て、「平和の灯ろうコンテスト」にカープ球団選手から平和メッセージをいただき展示を行いました。

施策の成果

戦争の悲惨さと、原爆の非人道性を語り継ぎ、恒久平和の願いを次世代に伝えるため、「平和のつどい」「平和の灯ろうコンテスト」「平和折り鶴募集」などの平和推進事業を実施し、多くの市民が取り組むことで、恒久平和の願いの浸透を図ることができました。さらに、核実験への抗議活動や、米軍の低空飛行訓練に対する中止要請は、世界恒久平和を願う市民メッセージとして発信しています。平和を願う思いが継承されるよう、啓発活動を通じて、市民一人ひとりの意識の高揚に引き続き取り組みます。

事務事業の実施状況

■ 平和推進事業（地域振興部）

広島市の平和記念公園に手向けられた折り鶴を活用する「折り鶴に託された思いを昇華させる取組」として、平和の願いが込められた折り鶴を活用した「平和の灯ろうコンテスト」を行い、市内の福祉施設や小中学校の児童・生徒などから419点の応募がありました。広島東洋カープの選手からは、灯ろう用紙に平和メッセージをいただき、応募いただいた全ての作品とともに三良坂平和美術館に展示を行いました。

また、本市も加盟している「平和首長会議」などと連携を取りながら、情報の収集を行い、核兵器廃絶を訴えました。平和への想いを込めた折り鶴の募集には、市民から27,243羽が寄せられ、恒久平和への願いとともに広島平和記念公園の「原爆の子の像」に手向けました。

広島・長崎に原爆が投下された8月6日、9日には、市民に原爆犠牲者の追悼の黙とうを呼びかけ、庁舎をはじめとした公共施設において半旗の掲揚を行いました。

■ 平和祈念事業の開催（地域振興部、三良坂支所）

市民一人ひとりが平和について考え、次世代にその尊さを伝える契機の一つとして「平和のつどい MIYOSHI2022」を三良坂平和公園で開催しました。「平和の灯ろうコンテスト」の表彰と、平和への想いをしたためた「平和への想い（一筆箋）」作品の表彰を行いました。会場に設置された約800基の灯ろうへ、平和活動として広島県内全市町で繋いでいく「平和の灯リレー」から採火された火が灯され、本市から恒久平和への願いを発信しました。



平和のつどい MIYOSHI 2022

■ 関連事業への取組（地域振興部）

市民から寄せられた米軍機低空飛行訓練目撃情報の件数は、延 15 日、40 件でした。本市では令和3年度より、目撃件数が大幅に増加し、広島県内目撃情報も令和3年度と比較して大幅に増加しています。基地周辺や訓練空域下では、米軍岩国基地への空母艦載機移転前の平成29年度より大幅に増加傾向であることから、米軍機による低空飛行の騒音被害に関する関係自治体の協議会の構成自治体である廿日市市・北広島町・安芸太田町・三次市の連名で、外務大臣及び防衛大臣へ広島県における米軍機による低空飛行訓練などの中止を要請しました。

北方領土返還運動については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、市内ショッピングセンターでの街頭啓発活動を自粛し、市役所本庁でのポスターの掲示やチラシにより啓発を行いました。

■ ウクライナ人道支援の取組（地域振興部）

ウクライナへの人道支援として、ウクライナ避難民の受入れを表明するとともに、ウクライナ人道危機救援募金箱を設置し支援を呼びかけました。募金総額は619,419円でした。さらに、ウクライナ避難民の受入れに迅速に対応し支援につなげて行くため、市内企業・団体などへ協力を呼びかけ、協力支援の受け付けを実施しました。

また、本市に避難されたウクライナ避難民に対して、日常生活の安定を目的にウクライナ避難民生活支援金を給付しました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
平和推進事業	30		30	平和の灯ろうコンテスト 応募数 419 点 三良坂平和美術館 平和の灯ろうコンテスト作品展 7月15日から7月31日 折り鶴募集 27,243 羽
平和祈念事業	386		386	平和のつどい MIYOSHI 2022 (8月5日 / 三良坂平和公園) 参加者 約 200 人
ウクライナ避難民 生活支援金支給事業	1,800	国県支出金 1,600	200	ウクライナ避難民 5 人
計	2,216	1,600	616	

ウ 「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発

施策の概要

広島法務局三次支局や三次人権擁護委員協議会などと連携を図りながら、互いの違いを共に認め合い、支え合う、「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発を行い、人権尊重のまちづくりを進めました。

施策の成果

「人権の花」運動や「ひと・かがやきフェスタ 2022」を通じて、お互いを思いやる心や命の大切さを感じていただくことができました。

小中学生による人権ハート絵かがやきメッセージや書などの作品制作も学校単位で取組が行われ、展示の場を提供することで、人権尊重意識の普及・高揚を図りました。

事務事業の実施状況

■ 「ひと・かがやきフェスタ 2022」(地域振興部)

人権週間にあわせて「ひと・かがやきフェスタ 2022」を三次人権擁護委員協議会及び三次地区保護司会と連携し、12月4日に開催しました。

会場の人権啓発パネル展示に加え、中学生人権作文朗読や社会を明るくする運動作文表彰を行い、地域社会における人権について考えていただく機会となりました。

講演会では、非営利型一般社団法人日本LGBT協会代表理事 清水展人さんを講師に迎え、「女らしく、男らしくより自分らしく生きる ～すべての人の性が尊重される社会へ～」と題し、ご講演いただきました。個性を受け入れることや自分らしく生きることの大切さが感じられる内容であり、「人権」を身近に感じていただき、効果的な啓発を行うことができました。

■ 人権ハート絵かがやきメッセージ(地域振興部)

市内小中学校の児童・生徒が人権への思いを表現した「人権ハート絵かがやきメッセージ」を市内ショッピングセンター及びみよしまちづくりセンターで展示しました。

■ 「人権の花」運動(地域振興部)

植物を育てることで、子どもの情操をより豊かにし、命の大切さや相手への思いやりという人権を尊ぶ気持ちを育むことを目的に、広島法務局三次支局及び三次人権擁護委員協議会との共催で、十日市小学校、和田小学校、君田小学校の3校にヒヤシンス栽培セットを贈呈しました。

人権の花贈呈式において、児童に対して、人権イメージキャラクターを用いて「人権」について呼びかけを行うことで、人権に対する関心を高め、理解を深めることができました。

■ みよし日本語教室(地域振興部)

市内在住の外国人が日常生活を営むうえで必要となる日本語能力を習得できるよう、「みよし日本語教室」を開催しました。日本語学習支援スタッフ15人の協力により、毎週火曜日と木曜日に開催し、外国人受講生36人(令和4年度末時点)の学習を支援しました。

また、日本語学習支援スタッフのレベルアップに力を入れるため、日本語学習支援スタッフ養成講座を実施しました。

引き続き、誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めます。

■ 各種相談事業の充実（市民部、地域振興部）

外国人が日常生活や地域、職場において各々の個性や能力を發揮しながら活躍できる社会づくりを推進するため、一般財団法人三次国際交流協会の協力を得ながら、外国人生活相談を毎週1回開設しました。外国人住民へのサービス向上のため、多言語翻訳アプリ「Voice Biz（ボイスビズ）」（音声翻訳 11 言語、テキスト翻訳 30 言語の中から選択した言語に自動で翻訳し、タブレット端末に音声やテキストを出力する AI アプリ）を活用し、窓口での諸手続きや相談などに対応しました。

また、弁護士による「市民無料法律相談」を毎月2回開設したほか、消費生活相談や人権相談など、市民が安心して相談できる体制の充実に努めました。

■ 女性保護対策事業（子育て支援部）

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）に基づく暴力被害女性の保護を図るため、相談員を配置して対応しました。婦人相談では、DV（ドメスティック・バイオレンス）などの深刻な問題のほか、広く女性が抱える諸問題の解決のため、相談員による面談及び電話相談を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
「ひと・かがやきフェスタ 2022」	197		197	開催日：12月4日 場 所：みよしまちづくりセンター ペペラホール 参加者数：90人
人権ハート絵かがやきメッセージ	30		30	人権ハート絵展示数：185点
「人権の花」運動	124	国県支出金 65	59	【実施校】市内小学校 3校 参加児童数 208人
みよし日本語教室	590	国県支出金 122	468	開催日：毎週火曜日・木曜日 日本語学習支援スタッフ 15人 日本語学習支援養成講座 レベルアップ講座受講者 36人
各種相談事業	4,289	国県支出金 911	3,378	無料法律相談（月2回） 104件 消費生活相談 186件 外国人生活相談（週1回） 51件 生活相談 26件
女性保護対策事業	2,472	国県支出金 1,235	1,237	婦人相談件数 308件（実人数 61人） （うちDV相談 151件 実人数 25人）
計	7,702	2,333	5,369	